



あなたの街の
ドクターが
アドバイス

乳房の良性疾患について

乳房の疾患には多様な症状があります。乳がん検診、専門医の受診を

乳がんはいまや日本人女性の11人に1人がかかるといわれ、大変罹患率が高くなっています。しかし乳腺外来を受診される方がみな乳がんというわけではなく、乳房の良性疾患と診断される方も相当数いらっしゃいます。外来で診察する中で多いのが「乳腺症」「線維腺腫」「嚢胞」などで、ときに「乳管内乳頭腫」というあまり聞きなれない病気もあります。

乳腺症とは、乳房のしこり、硬結(平たいかたまり)、疼痛または乳頭分泌などを症状とする乳腺良性疾患の総称です。最近は病気というより、年齢と共にホルモン環境が変わることによる体の変化と位置づけられています。原因は女性ホルモンの過剰状態が原因と考えられています。治療は基本的には経過観察で、強い乳房痛のみ薬物治療の対象となります。多彩な症状を示すので非常に心配して来院される方が多いのですが、主症状の多くは自然軽快するので心配はいりません。ただしこりの症状がある場合、乳がんでないことをしっかりと確認する必要があります。

線維腺腫は、20〜30代に好発する良性腫瘍です。痛みのないしこりで、検診エコーなどの際に偶然見つかることが多い疾患です。診断は、画像だけで判断できることも多いのですが、ある程度の大きさのときは細胞診や組織診(針生検)などで確定します。大変よく似た疾患に葉状腫瘍というものがあり、まれに悪性のこともあるので組織診による診断をもとに個別の対応が必要です。

嚢胞は、袋状になったところに分泌物が貯留してできる良性疾患です。しこりや、エコー検査で偶然見つかることが多く、治療は経過観察のみでよいのですが、大きなものは排液することもあります。

乳管内乳頭腫は、乳管という細い管にできる小さな腫瘍です。茶色や赤色の乳頭分泌で見つかることが多い疾患です。一部に非浸潤性乳管がんという初期の乳がんの場合があり、濃い色の分泌は精密検査が必要です。

乳房の症状はしこり、痛み、乳頭分泌、皮膚のひきつれなど多様です。症状があり、乳がん検診を受けていない方は一度乳腺専門の医療機関を受診することをおすすめします。

今回のドクターは



大通り乳腺・甲状腺クリニック
院長

亀嶋 秀和 先生

1992年札幌医科大学卒業。
同大第一外科、がん研有明病院、
滝川市立病院、東札幌病院などの勤務を経て2017年4月開院